

平成 29 年 12 月 11 日 都市整備委員会

○**小林委員** 私から、重複は避けまして、端的に三問、お伺いさせていただきます。

今回の再開発検討会議は、四名の委員の方々からプレゼンテーションが行われたとのことですが、資料を拝見しましたが、築地の魅力を初め、日本の食文化発信拠点、医療観光、伝統文化など、さまざまな視点からプレゼンが行われたようでございます。

小池知事も、今定例会の所信表明でこの検討会議に触れ、自由な発想で検討を重ねていただくとおられましたけれども、今回の会議における各委員のプレゼンの内容については、事務局などからある程度の方向性、また視点などの提案はされたのでしょうか、お伺いをいたします。

○**木村まちづくり調整担当部長** 検討会議では、築地の魅力を最大限に生かした再開発に向けて、さまざまな分野で活躍されている方々から、自由な発想で幅広いご意見をいただき、築地のまちづくりの大きな視点として整理することとしてございます。

プレゼンテーションにつきましては、行っていただく委員の知見や専門性などを生かし、委員ご自身の判断で内容を決めていただいております。

○**小林委員** 委員ご自身の判断とのことですが、今後も別の委員の方々がプレゼンをされることになると思いますが、プレゼンが終了した時点で、さまざまな視点、論点、課題などが出そうになると思います。そうした点については、先ほどもご答弁があったとおり、第四回以降の会議で、テーマ別の議論や取りまとめの方向性を議論して、来年五月をめどに、まちづくりの大きな視点を取りまとめていくということでした。

また、委員とは別に、検討会議には、築地がある中央区の方々もオブザーバーとして参加されていますが、中央区の方々からすれば、まさに地元の築地が今後どう議論され、どうなっていくのか、中央区も大きくかわっていく課題でありますので、最大の関心を持って会議に参加されていることと思います。

オブザーバーという立場は、発言権があるのかないのか、また議決権があるのかないのか、さまざま論じられることもあるかと思いますが、そうした中で、今回の検討会議の場では、中央区が積極的に発言をするといった場面は余りないかもしれませんが、いずれにしても、そうした地元区の意向を丁寧に聞きながら、再開発の検討をぜひとも進めてもらいたいと思いますが、見解をお伺いいたします。

○**木村まちづくり調整担当部長** 検討会議は、築地の魅力を最大限に生かした再開発に向けて、各分野で活躍されている方々から、自由な発想で幅広いご意見をいただき、築地まちづくりの大きな視点として整理することを目的としてございます。

中央区につきましては、オブザーバーとして参加していただいております。検討会議において、議論の状況によっては中央区の意見を求めるということも想定されます。築地再開発がよりよいものとなるためには、地元区との連携協力が不可欠であると考えてございます。

今後、再開発の検討を進めていくに当たりまして、中央区とは適宜、意見交換等を行うなど、区の意見も踏まえて検討を進めていきたいと考えてございます。

○**小林委員** 今回の豊洲市場にかかわるこの一連の問題の中では、豊洲でいえば江東区、築地でいえば中央区という、地元区といかに信頼関係を築き、緊密に連携をとっていくのかということが大変重要なテーマであると思います。中央区とは丁寧に意見交換を重ねていただきたいと思います。

さまざまな視点でプレゼンが行われ、論点を整理し、今後、議論を深めていくことになると思いますが、そうした取り組みを行う上では、各委員がまちづくりの前提条件となる事項をどう共有しているのかが重要ではないかと思います。

例えば、さきの本会議で我が党の代表質問でも触れましたが、築地市場跡地を一般会計への有償所管がえにするのか、または貸し付けるとする方法をとるのかによっても、議論の方向性が変わってくる可能性も否定できないと思います。

再開発の検討にも影響を与えるのではないかと考えられるまちづくりの前提条件などについて、委員にはどのように説明をされているのか、お伺いいたします。

○**木村まちづくり調整担当部長** 検討会議の委員に対しましては、会議の目的や設置までの経緯のほか、築地エリアの歴史や特徴などについて説明してございます。その上で、築地の魅力を最大限に生かした再開発に向けて、自由な発想で幅広いご意見をいただくこと、また、まちづくりの大きな視点を整理していただくことなどをお願いしてございます。

○**小林委員** 先ほどご報告のあったこの主な意見の中で、一番最後の意見ですけれども、私も改めてこの会議の議事録、拝見をいたしまして、詳細な発言の内容というものを確認いたしました。ある委員の方の、このような発言がございました。きょうの話を聞いていて、そもそもこれは誰を対象にした開発になるのかということを考えなければいけない、もちろん、インバウンドもあるし、地域のまちづくりという観点もあるので、この誰が対象なんだろうかということは考えなければならないポイントだろう、どういうものをつくったらいいのか、そのときにどういう注意点があるのかというお話の前に、そもそも目標として何を達成するのか、誰にとっての価値なのかといった、ちょっと青臭い議論ではありますけれども、このあたりはちゃんと軸をしっかり持つていく必要があると、今、思いました、このような発言がありました。非常に私も大事なご指摘ではないかなというふうに思います。

何のため、誰のためという、この立ち返るべき原点を持って議論を進めていくことが、極めて重要であるというふうに思います。この点をぜひとも念頭に置いて議論を進めていただくことを要望いたしまして、質問を終わります。